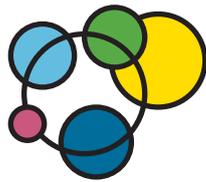


そわにえ Soigner



第29号

「Soigner (ソワニエ)」とは、「世話をする・手当てする」という意味のフランス語です。

2015年5月25日発行

発行/東京訪問看護ステーション協議会(責任者 嶋森好子)
〒135-0063 東京都江東区有明3-6-11 TFTビル東館9F
株式会社プロコムインターナショナル内
TEL: 03-5520-8824 / FAX: 03-5520-8820
<http://www.tokyohoukan-st.jp>

INDEX /

- | | |
|----------------|-------------------|
| 協議会10周年にあたって…② | 写真で見る 東京の訪問看護 ……⑧ |
| 10年間の思い出 ……③ | 現在の総務会 |
| 協議会10年間の活動…④ | メンバーから ……⑩ |
| 歴史を振り返る ……⑥ | 編集後記他 ……⑫ |



私たちは訪問看護師です



あなたも仲間になりませんか



協議会10周年にあたって

東京訪問看護ステーション協議会 設立10周年記念によせて



平成17年に、東京都の支援を受け、東京都医師会、東京都看護協会の協力を得て、東京訪問看護ステーション協議会が設立され10年が経ちました。協議会の目的は、「訪問看護事業の経営、サービスの質の向上などに関し、研修事業、情報交換、連絡調整及び調査研究などを行うことにより訪問看護事業の健全な発展を図り、都民の保健福祉医療の向上に努めること」です。

国は平成26年に、社会保障制度改革の舵を大きく切りました。今後の超高齢社会に向けて、地域包括ケアシ

公益社団法人 東京都看護協会 会長 嶋森 好子
東京訪問看護ステーション協議会 会長

テムの構築を推進するため、“医療と介護の一体確保関連法の整備”を行う事にしました。医療法を改定し病床機能の届出が義務化され、看護職員等の確保推進に関する法律を改定し、離職時等の届け出を努力義務化しました。

地域包括ケアシステム推進の課題は、受け皿作りです。チーム医療推進によって、多職種が地域に参入する中、看護職への期待は増大しています。東京都内の訪問看護ステーションは、この1年で急激に増加しました。一方、質担保の課題が見えています。

東京訪問看護ステーション協議会は、この10年を基礎として、都内の訪問看護ステーションが質・量とも更なる発展を遂げるよう活動を推進して行きます。

協議会10周年にあたって



東京訪問看護ステーション協議会10周年、おめでとうございます。東京都医師会医療福祉担当としてまだ2年間という短い期間ではありますが、総務会、訪問看護ステーションフェスティバルの準備などで行動を共にさせていただいており、皆さんの訪問看護にかける熱意には頭の下がる思いです。

東京都においても2025年に向けて「地域包括ケアシステム」の構築が急がれている中で、在宅医療の整備・

公益社団法人 東京都医師会 理事 内藤 誠二

ネットワーク作り、さらに多職種との連携等、解決しなくてはいけない問題が山積みとなっています。また在宅医療と入院医療の切れ目のない連携も「地域包括ケアシステム」を支える重要な部分です。東京都医師会としてそれらの問題解決、システムの構築に全力を注いでいますが、協議会の代表の方には医療と介護をつなぐ立場として有益な意見をいただいています。

まだまだ道のりは長いと思いますが、東京都民が安心して安全に暮らせる地域づくりは我々の共通の目標だと思います。これからもまた一緒に頑張っていきましょう。

そわにえバックナンバー



10年間の思い出

連絡会設立から協議会への移行期の思い出



新宿訪問看護ステーションは、平成5年2月に医療法人立の独立型ステーションとして事業を開始しました。しかし、ステーションの運営から事務処理の仕方など手探状態でした。それで、先発組のステーション仲間と話し合いをしている

うちに、お互いに情報交換しあうことの必要性に気づき、同年の5月に9か所のステーションが集まり連絡会を立ち上げ、看護の質を確保した訪問看護のあり方を検討して行くということになりました。

当時はステーションを立ち上げて相談するところもなく、東京訪問看護ステーション連絡会だけが唯一の拠り所だったので。ですから、この連絡会には次々に参加者が増えて行きました。その後、他の自治体では徐々に看護協会と医師会とが参加した訪問看護ステーション協議会が設立されて行きました。しかし、東京訪問看護ステーション

元 新宿訪問看護ステーション 所長 横田 喜久恵

連絡会だけは訪問看護ステーションだけの集まりであることを固持して来ました。それは、当時のステーション所長達は、訪問看護活動を実践している看護職者が中心になって訪問看護事業のあるべき姿を求めて行く会が必要だと考えていたからです。

厚生労働省にも近いので、都内のステーションの現状や問題点、たとえば、報酬単価の低さ、医師の訪問看護指示書に対する認知度の低さ、制度の使い勝手の悪さなどの資料を作成し、厚生労働省の担当者に訪問看護ステーションの運営状況の大変さを聞いてもらいました。こうしているうちに、全国的には、協議会が中心となった訪問看護事業の支援活動が広がってきました。それで、東京だけが“連絡会”に固執することの限界を時代とともに感じ始め、東京都看護協会と東京都医師会にお願いして東京訪問看護ステーション協議会へ移行することになりました。

時代は連絡会から協議会へ



関係者の皆様のご活躍で協議会は成長し、10年を迎えることができ感謝申し上げます。

振り返ってみますと、今から26年前、山崎麻耶さん、新津ふみ子さん等が主宰していました「東京ホームケア研究会」に出席し、凄い！真剣に討議し、語っている人らがいることに感銘を受け、優柔不断な動機で在宅看護の世界に入った私は、そのいい加減さを自覚したものです。

それから時を経て、協議会の前身である「東京訪問看護ステーション連絡会」の西部ブロック（大田、品川、目黒、世田谷区）から運営委員を難産の末引き受けたのが縁で連絡会、協議会合わせ10年間関わることになりました。

その後、時代は都道府県協議会設立の方向にあり、連絡会も転身を決意することになり、事務局の宮崎和加子さん、

世田谷区社会福祉事業団 看護師特別参与 佐々木 静枝

代表の山田京子さん、そして私の3人で東京都看護協会に赴き、協議会設立の理解と協力を求めましたが、残念な結果でした。ところが、森山弘子新会長とともに一気に幕が開きました。感謝！感謝の思いでいっぱいでした。会長のご尽力で、江戸東京博物館で多くの来賓を迎え、盛大に設立式典を開催することができました。

そして、時代はネット社会。HPの開設については、立ち上げ当初から検討課題にありました。しかし、なかなか取り組めないでいました。総務会で決定し、3社の見積もりを取り、最も低額な会社をお願いしたものが現在のものです。看護協会ですぐに精通している方がいらっしゃり、その協力で立ち上げることができました。東京都看護協会の理解、協力にあらためて深謝申し上げます。

これまでの先輩等の熱意に感謝しつつ、これからの協議会の益々の発展を祈念申し上げます。

協議会10年間の活動

東京都・東京都看護協会との連携

公益社団法人 東京都看護協会 常務理事 廣岡 幹子

訪問看護ステーション協議会設立当時から、訪問看護の発展のため、東京都から管理者育成研修や人材確保推進のための予算がつけられ東京都看護協会を通じて、様々な支援をいただいています。

平成20年度から平成22年度にわたり、訪問看護ステーション管理者研修ステップⅠ、ステップⅡが実施されました。これらのカリキュラムは、訪問看護ステーション協議会理事、研修委員が中心となって作成されています。また、平成21年度から22年度には事例検討集を作成し、その活用を目的に都庁大会議場でシンポジウムも開かれ、多くの方々に参加されました。平成25年度からは、訪問看護人

材確保事業の委託もあり、協議会を中心に実行委員会を結成、「訪問看護フェスティバル」の実施やリーフレット、DVD「Only Oneの看護・めざせ訪問看護の世界」などを作成しています。東京都、東京都看護協会と東京訪問看護ステーション協議会は一体となって、訪問看護の発展をめざし活動しています。



DVD
「Only Oneの看護」
めざせ訪問看護の世界

地域の特徴を生かした活動

八王子市医師会立 元八王子訪問看護ステーション 城所 シズ子

平成17年1月に、東京都看護協会会長森山弘子先生を会長として、東京都訪問看護ステーション協議会と改組した際、それまでの連絡会と、新しい協議会の違いの認識も曖昧なままに支援委員会の委員となりました。参加していくうちに、介護保険や医療保険の改正の度ごとに、審議・要望書を提案し、結果が具体的に改正されていく様を目の当たりにすると、協議会の位置付けが誇らしく思いました。

ブロック支援委員会は、それぞれの地域の特徴を踏まえながら、会員相互の繋がりを密にするための、研修会・勉強会の開催や、各ステーションの会員相互の交流や管理者の情報交換・相談の場でもありました。色々な場に参加し、多くの方々との交流を持つ事はとても大事で有意義な事です。繋がりがあるという事は、困った時・迷った時など連

絡し、問い合わせなど出来る事です。

当初11ブロックで活動していましたが、多摩地域の広さと、アクセスの不便で、北多摩ブロックを3ブロックに地域分けをし、より効果的な活動が出来るように分割し、現在は12ブロックでの各地域に密着した活動をしています。



地域の看護師ネットワーク研修会

そわにえ10年

上野訪問看護ステーション 天木 弘子

協議会になってからは予算もつき、カラーの広報誌を作る事になり、当時の広報委員のメンバーでいちから色々考え、今の「そわにえ」の元を作りました。「そわにえ」はフランス語で世話をするという意味です。そしてロゴを作るのを台東区在住のデザイナー倉持さんにお願しました。

印刷は以前からお付き合いのある伊豆アート印刷の山田雅己さんにお世話になり、今、「そわにえ」は28号まで発行されました。遅々として進まない企画や暗礁に乗り上げて困っているとき、いつも助けてもらい、どうにか毎号の発行が出来ていたわけです。イベントのポスターやパネル作り、パンフレットや封筒の印刷も丁寧な仕事をしていただいています。

たくさんの方々のご協力に感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございます。



そわにえ第6号表紙
作家・小林光恵さんと

将来を見据えた研修を!!

中野区医師会訪問看護ステーション 徳江 幸代

研修委員会は、東京訪問看護ステーション協議会の研修企画実施と外部研修を受け入れる活動を担ってきました。全体研修は、協議会としていつも将来を見据えた先進的な研修を心がけて開催しました。一方、10年継続している事業が「訪問看護ステーション1日体験研修」です。この事業は、平成17年医療施設と行ったパネルディスカッション「退院援助をめぐる課題と地域連携」のアンケート結果の要望から始まり、初期の頃研修生とステーションのマッチング作業は手作業で2日間終電まで掛かりました。10年間延べ1,345名の病院スタッフ（看護師・MSW）の研修を受け入れ、毎年130前後のステーションの協力があります。研修後のアンケートでは、いつも訪問看護の魅力と可

能性に大きな反響があります。委員長は4人代わりましたが、常に活気にあふれています。



研修委員会のメンバー

広がれ!! 訪問看護

ナースステーション東京目黒支店 広川 直美

振り返ってみると初めて東京訪問看護ステーション協議会に理事として参加したのは19年からで、推進委員会には平成21年から「委員長」を任命頂きました。当初は右も左も分からなかったもので、役員の方々にしばらく委員会に参加いただき手取り足取り指導頂きました。その際に先輩方からは「訪問看護が世の中の人たちに広がり、訪問看護師達のためになることなら何でも取り組んで！」と言われたことでしたが、これは大きな難題でした。

護を実践する仲間の一人として、微力ですが協議会活動にも積極的に参加していきたいと思っています。

政策提言などはまだ力が及びませんでした。「看護フェスタ」で健康・療養相談、介護相談は年々評判を上げ、ブースへお越しになる方が100名を超えるほどになりました。多忙な業務の中での活動ではありましたが、それぞれの地域での課題などを学んだり、委員の皆さんに助言をいただいたりする事はとても楽しい時でした。今後も同じ訪問看



訪問看護フェスティバルでの相談風景

災害対策から広がる仲間の輪

訪問看護ステーションけせら 阿部 智子

東日本震災の被害は東京にも及び、東京訪問看護ステーション協議会の会員ステーションにも様々な影響を受け、混乱とその対応に困惑した実態が見られました。東京の訪問看護ステーションは大都市である中央で運営している場合と、山間部での運営など、地域によって運営の方法にも違いが生じることから、東日本震災がそれぞれのステーションに与えた影響と問題を集約し、整理しておくことが必要ではないかと考えました。災害対策プロジェクトチームを立ち上げ、協議会会員ステーションにアンケートを実施したことが最初です。アンケートの結果から、多くの課題も見えました。東京直下型の震災が起きるといわれていますが、自然災害だけはいつ起きるのかは誰も予測できません。よって、いつでも災害に備えておく必要があります。

ステーション独自での対応が困難な部分を災害対策委員会で対応することを目的としています。



協議会に「災害プロジェクト」誕生

History

歴史を振り返る

連絡会から協議会への移行

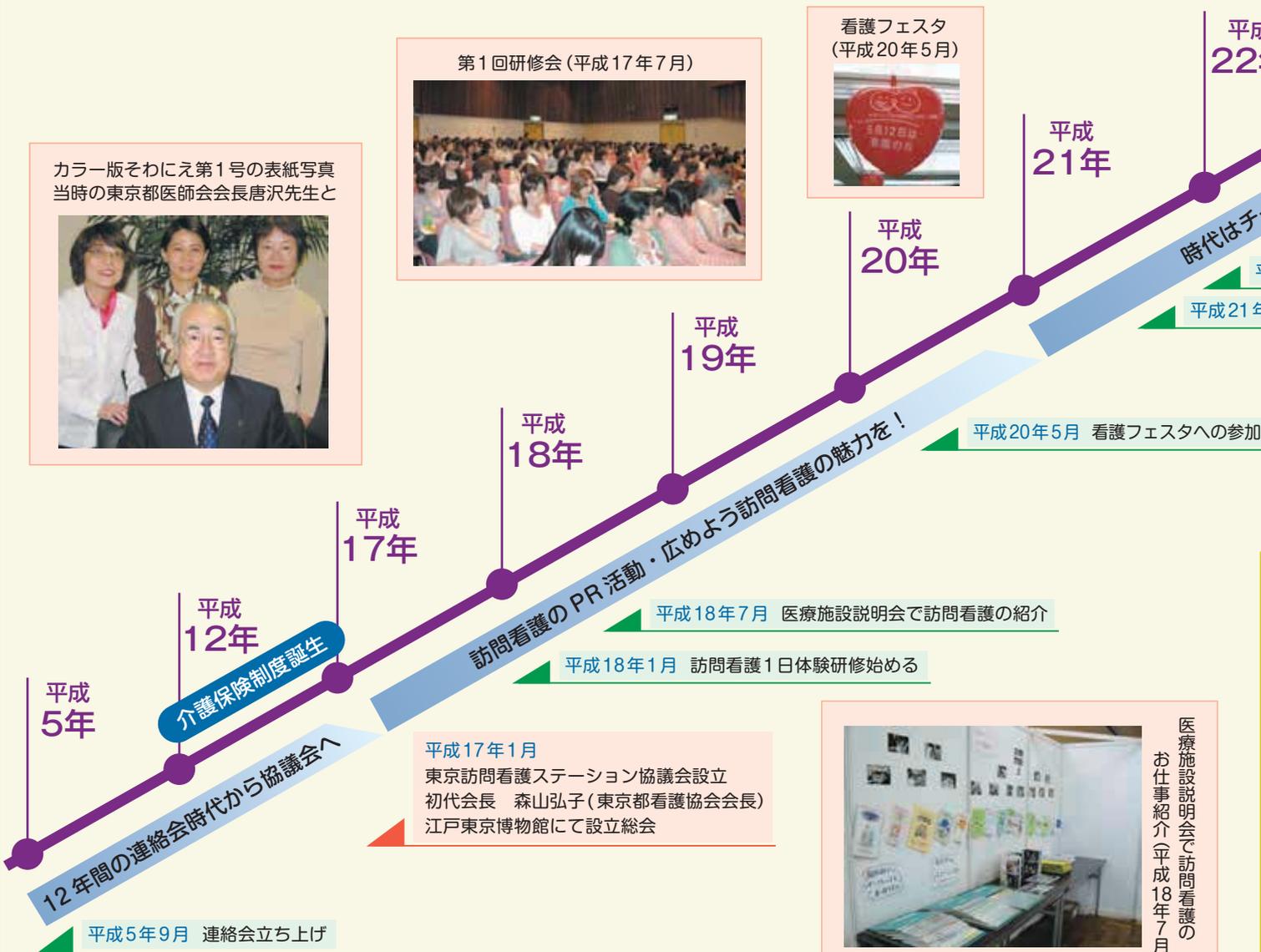


浅草医師会立訪問看護ステーション 所長 山田 京子

介護保険制定から3年目、一時の混乱も落ち着いた2002年に訪問看護のパイオニアである横田喜久恵氏から連絡会代表を引き継がせていただきました。介護保険検討・現任教育・学生実習・ニュース発行・ブロック活動等各委員会が訪問看護推進に向け熱心に活動し、2004年2月には東京訪問看護ステーション連絡会10周年記念祝賀会を、京王プラザホテルにおいて盛大に開催しました。この時期、厚生労働省が「訪問看護推進事業」を打ち出し多額の予算を計上。都内ステーションは500ヶ所に達し、連絡会員数も290

と大組織になっていました。そこで時代の要望に応えるべく、① 行政・他団体から認知された確固とした団体にする。② 「東京都訪問看護推進事業」等を成功させる。③ 会の運営を安定的に継続させる・・・以上の目的から連絡会を発展的解散とし、東京都看護協会・東京都医師会支援による協議会を設立することとなりました。臨時総会にて解散可決、2005年1月26日協議会設立に至りました。

今でも当時の副代表である佐々木静枝氏と「協力支援が得られるか」と緊張した面持ちで東京都看護協会に出向いたことが忘れられません。その協議会が10周年を迎えることに感慨を覚えるとともに、益々の発展を願ってやみません。



カラー版そわにえ第1号の表紙写真
当時の東京都医師会会長唐沢先生と



第1回研修会(平成17年7月)



看護フェスタ
(平成20年5月)



平成
21年

平成
22年

平成
5年

平成
12年

平成
17年

平成
18年

平成
19年

平成
20年

平成21年

平成5年9月 連絡会立ち上げ

平成17年1月
東京訪問看護ステーション協議会設立
初代会長 森山弘子(東京都看護協会会長)
江戸東京博物館にて設立総会

平成18年1月 訪問看護1日体験研修始める

平成18年7月 医療施設説明会で訪問看護の紹介



医療施設説明会で訪問看護のお仕事紹介(平成18年7月)

Photograph

写真で見える東

西多摩ブロック……青梅市・福生市・羽村市・あきる野市・瑞穂町 日の出町（檜原村、奥多摩町）

西多摩ブロックは都全体の約26%の面積で訪問エリアがとにかく広いです。

訪問の中心は車で、看護師資格と運転免許は必須です。エリアは奥多摩の自然豊かな地域からベットタウンとしての都市化が進んでいる地域まで広範囲に訪問を行っています。訪問先で日本カモシカに遭遇することも……。

そんな西多摩ブロックですが、車窓から見る季節の移り変わりに心を和ませながら、日々、安全運転を心掛け訪問を行っています。



北多摩南ブロック

……武蔵野市、三鷹市、小金井市、府中市、調布市、狛江市

この地域は東京都のほぼ中心に位置し、緑豊かな住環境が自慢です。都立や私立の公園、美術館などの施設も多くあり、文化面でも非常に充実し気軽に楽しむことができます。

いくつかの公園ではドラマの撮影を見かけることもあります。皆さんもご存知の住みたい街No.1 吉祥寺、スタジオジブリや深大寺、東京競馬場もこの地域にあるんですよ。



南多摩ブロック……八王子市、町田市、日野市、多摩市、稲城市

多摩のすぐれた自然環境と調和した居住環境を備えた地域です。幕末のヒーロー新撰組のふるさとでもあり、多摩地域は、江戸幕府への忠誠が厚いという歴史に多くの足跡を残してきました。首都機能に隣接することによる利便性と、人、物、及び情報の結節点として、一層の発展の可能性を秘めています。緑も多く、移りゆく季節の風景を楽しみながら毎日訪問しています。ジブリ映画の「平成狸合戦ぽんぽこ」「耳をすませば」の舞台はこの地域です。



北多摩西ブロック……立川市、昭島市、国分寺市、国立市、東大和市、武蔵村山市

10ブロックは昭和記念公園や殿ヶ谷戸庭園などの豊かな緑、玉川上水の水流のせせらぎが響き渡る自然豊かなエリアです。東大和市から立川市を經由して多摩市までを結ぶ多摩モノレールを始め、西武線や中央線沿線で都心へのアクセスも抜群です。

公園では小さな子供とおじいちゃんおばあちゃんが遊ぶ姿が見られます。人の優しさを肌で感じる事の出来るエリアです。



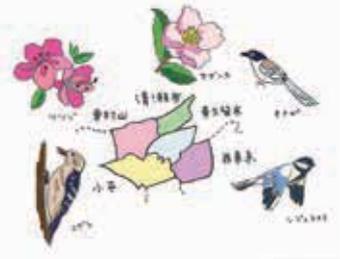
北多摩北ブロック

……小平市、西東京市、清瀬市、東久留米市、東村山市

第12ブロックは小平・西東京・清瀬・東久留米・東村山の5市から構成されています。都心への交通も便利で、緑や花・果物が豊富で、大変住みやすい地域です。

各市には10ヶ所前後の訪問看護ステーションがあり、どのステーションも訪問範囲は広く、「リハビリが専門」「常時ターミナル受け入れ可」など、それぞれが特徴を活かして活動しています。近年は精神疾患をメインにしたステーションも増えています。

また、訪問診療を専門としているクリニックも地域に浸透してきて、「主治医が見つからず困る」ということもないようです。



城西南ブロック……目黒区、世田谷区・渋谷区

城西南ブロックは目黒区、世田谷区、渋谷区に3区からなります。

渋谷区は原宿、表参道を中心に若者、観光客が集まり、1年中賑わっています。

その両側に位置する目黒、世田谷は比較的閑静な住宅街が広がっています。都心にもかかわらず公園や神社、お寺が多いため、緑に恵まれています。代々木公園、駒沢公園や目黒川沿いなど桜の名所も多く、季節の移り変わりを感じながら自転車を走らせることができます。

京の訪問看護

城北ブロック……北区、豊島区、練馬区、板橋区

北区：飛鳥山公園などお花見を楽しめる所が多いけれど、坂道が多く電動自転車が必要。
 豊島区：大正ロマンを感じる都電荒川線が新庁舎から巣鴨までをつなぐ、新旧文化融合の街。
 練馬区：光が丘公園や石神井公園は、かつての武蔵野の風情がまだ多く残る散歩コース。
 板橋区：石神井川沿いの桜は毎年楽しみ！商店街が多く住みやすい街。当ブロックは医療機関との連携も充実してま〜す。



城南ブロック……品川区・大田区

城南ブロックは23区の南端にあります。訪問看護ステーションがどんどん増えています。どこのステーションも自転車での訪問が主です。

冬の寒い日に耐え、桜の咲く頃は訪問しても楽しい季節です。第2ブロックの桜の名所は、目黒川、洗足池、歌で有名になった桜坂など……。危なくない程度に桜を見ながら自転車走らせています。



城東北ブロック……荒川区、足立区、葛飾区

城東北ブロックは、きどらない下町の雰囲気満載で、人情味のある商店街や町並みを、走っています。肌で四季を感じられることは、大変な時もあるけど、訪問看護をやっていると良かったなと思います。また、桜の多い地域なので、お花見には事欠きません。あっちで呼ばれ、こっちで呼ばれ。待っていて下さる方に、「お待たせしました〜！」
 今日も頑張ってます。



城東ブロック……墨田区、江東区、江戸川区

城北ブロックの特徴は、古い下町の良さと新しさを兼ね備えた活気のある地域ではないでしょうか？地域の助け合いが機能しているエリアもあり、元気な高齢者が多いように感じます。一方で、江東区や江戸川区の葛西地域は子供が多いことでも知られています。なので、訪問看護の対象者も、0歳から100歳以上と幅広く、日々楽しく訪問しています。それから、坂が少ないので自転車での訪問がとてもラクです。イイですよ〜！写真は、亀戸天神から撮影したスカイツリーです。



中央ブロック……千代田区、中央区、港区、文京区、台東区

中央ブロックは大東京の中心地にあり、皇居、六本木、お台場、青山、赤坂、東京ドーム、秋葉原、築地、上野公園、浅草と世界中の人が知っている所が訪問エリアです。昨今、外国人観光客がどっと押し寄せ、自転車移動が困難になってます。信号待ち中に外国人に道を訊かれる事もしばしば。利用者さんも国際化ははじめています。国際都市TOKYOの中心で働く私たちは、オリンピックに向けて英会話ぐらいは出来ないと言バいですね。



城西ブロック……新宿区、中野区、杉並区

都庁や立ち並ぶ大学病院。まさに大都市東京を象徴する地域ですが、それぞれの活動を紹介します。

杉並地区

医師とケアマネジャーとの連絡シートを活用し、連携を密にしています。現在は、クリティカルパスの導入に向けて資料を作成中です。また、認知症サポーター養成や緩和ケア整備に向けて取り組んでいます。

シンボル 花：サザンカ 木：スギ・アケボノスギ



中野地区

ほっとサロン南口（中野区のがん療養に関する相談窓口）・オレンジバールンフェスタ（緩和ケア普及啓発事業）・オレンジバールンプロジェクトに参加しています。

シンボル 花：つつじ 木：しい



新宿地区

今や24箇所の訪問看護ステーション連絡会・活発な交流会を開催しています。新宿区内の大学病院や都立などの病院主宰の研修会・交流会にも参加し、病院看護師との交流も深まりいとお付き合いができています。

シンボル 花：つつじ 木：けやき



現在の総務会メンバーから

今の協議会活動について

訪問看護ステーションみけ 所長 椎名 恵美子

当協議会は、訪問看護事業の経営、質の向上などに関し、研修事業、情報交換、連絡調整及び調査研究などを行うことにより訪問看護事業の健全な発展を図り、都民の保健福祉医療の向上に努めることを目的として、理事会と総務会で執行業務をおこない、5つの専門委員会が活動しています。また、東京都・医師会・薬剤師会等の15以上の外部委員会へも参加し、他機関と協働し訪問看護の普及啓発や人材確保事業及び行政などへ訪問看護界が抱える課題を発信し解決する役割も担っています。

訪問看護制度の確立や協議会運営にご尽力を注いで

くださった諸先輩方は、その人徳性から、これまでのご苦勞話をされることはありませんが、訪問看護ステーション制度を安定化し協議会の地位を高め、行政への要望提出等々、これまで訪問看護界の為に並々ならぬ力を注いでくださり、訪問看護界が社会的信頼を得るようになった歴史があることを忘れてはなりません。

今後も、諸先輩方が築き上げてこられた訪問看護界への信頼を損ねることのないよう、当協議会は「個々の訪問看護ステーションがその地域に根づき、住民に必要な質の高いサービスを提供し社会貢献できる」ように邁進してまいります。

前東邦大学医学部看護学科 教授 長谷川 美津子

10周年おめでとうございます。私は2011～2014年度までの4年間、顧問として関わらせていただきました。この間、総務会や幾つかのプロジェクトと委員会に参加しました。それによって、東京訪問看護ステーション協議会の活動の素晴らしさを実感しました。一つの訪問看護ステーションでは解決が困難な現場での課題や社会状況の変化に伴う将来的な課題に対して、組織の力を集結し、解決の方向へと一歩ずつ前進させています。そして、これらは常に「訪問看護利用者へのサービスの質向上」と「魅力的な訪問看護の創造」を見据えた活動となっています。是非、あなたもこの仲間飛び込んでみてください。きっと「わくわくしている自分」がいることに気づくはずですよ。

フクシア訪問看護ステーション 看護部長 宮近 郁子

私は平成20年から研修委員・理事を務めさせていただきました。この間、協議会活動として、研修を計画立案し実施、また都の委託事業である訪問看護フェスティバルにも参加させていただきました。

協議会では、同じ仲間と一緒に議論を交わし、様々な活動を行ってきました。夕方の協議会の会議がある時は、慌てて電車に飛び乗り会議出席しました。体は疲れているものの会議が終わる頃、清々しい疲労感を覚えながら家路についたものでした。すべてが楽しい思い出です。

一つのステーションでは成し得ないことを、協議会を通して解決し、地域住民の医療と介護を支えていきましょう。私たちの協議会です。みんなで協議会を発展させようではありませんか！

城山訪問看護ステーション 管理者 榎本 智子

私は、訪問看護推進委員になり5年目になりました。訪問看護推進委員会は訪問看護を地域の方に広めるため年2回のイベントに参加し、介護・療養相談・骨折リスク計算や就業相談をさせていただいています。

今年度は、訪問看護の学生に向け、実習では十分に訪問看護が伝わらないので、春・冬休みを利用して実

習ができるステーションの仕組みを作る予定です。そして、仕事を早めに切り上げ、東京都下から飯田橋に向かうのは正直、大変ですが、会議を終えステーションの相談ごとなどを話せる仲間ができ、年1回程度「飲み会」を素敵な神楽坂でできるのが楽しみです。

野村訪問看護ステーション 所長 家崎 芳恵

広報委員になって6年。会報誌「そわにえ」の企画や編集をする中で、編集委員会や座談会などで、たくさんの方々との出会いがありました。ステーションでの悩み事やわからないことを相談したり、これからの訪問看護の夢を語ったりと「そわにえ」作りは、訪問看護の仲間作りです。編集会議も広報委員の仲間たち

のステーションを順に回って、職場訪問をしながら行っています。東京のいろいろな地域に行って、それぞれの特徴を感じながら、より滑らかなお口と頭で毎回企画を練っています。見るだけの会報誌ではなく、多くの訪問看護関係の方々から記事の投稿をいただき、会員の皆さんと一緒に作っている会報誌「そわにえ」です。

ナースステーションもも 所長 寺井 利恵子

研修委員会では「一日体験研修」と「協議会会員に有益な研修会」を開催します。「一日体験研修」は病院看護師に訪問看護を知ってもらおう事を目的に始めた事業でしたが、多くの病院看護師の参加があり、看護連携を深めることができている。また、「協議会会員に有益な研修会」は、時代のニーズに合った研修を企画します。時には大雪に阻まれ参加人数が予定より大幅

に減少して15名だった事もありました。しかし、人数が少ない分だけじっくりと研修を受講できました。研修会を企画運営するのは大変ですが、知らない方々と巡り会え、ネットワークをつなぐ事ができるのはとても有意義です。何も知らない私がここまで続けられました事はまさに、巡り会い、ネットワークの賜物です。

いずみ訪問看護ステーション本木 管理者 清水 さかえ

平成26年度からブロック支援委員として活動しています。ブロック支援委員会では他のステーションや地域での多職種とのネットワークづくりの構築を活動方針としています。委員会の活動としては年3回の委員会の開催の他に各ブロック毎に地域の特性に合わせた研修会や交流会を年に数回実施しており、各地域のステーションで抱えている悩みや問題を共有し、相談し合える場としての活動を行っています。私はブロック支援委員と総務会のメンバーとして昨年度から活動に参加していますが、この1年だけでもたくさんの活動や役割を体験させていただいています。総務会の皆様を始めとして理事や委員の皆様など、協議会の活動に参加しなければ直接お会いできない方々との出会いも貴重な経験だと思います。まずは多くの訪問看護ステーションの皆様へ地域のブロックでの活動にご参加していただき、協議会の活動を知っていただければと思います。



嶋森会長と総務会のメンバー



会議の様子

**東洋羽毛は日本の生活に、高品質な羽毛ふとんを普及させたい。
羽毛ふとんを通じて、日本の生活文化の向上に貢献したい。その思いで62年になります。**

私たちは常に社会と皆様の快適な生活のお役に立つには
何が出来るのかを考え行動してまいりました。

一例として…

- ・1956年、第1次南極観測隊に羽毛服と寝袋を納入。
その後、現在まで南極越冬隊の羽毛服には
東洋羽毛の羽毛が使用されています。

皆様に信頼される企業である為に、責任を持ち、挑戦し続けます。

皆様に信頼されて62年

TUK 東洋羽毛首都圏販売株式会社

東京営業所 ☎ 0120-195804

西東京営業所 ☎ 0120-218104

南東京営業所 ☎ 0120-559070

www.toyoumo.co.jp

